

令和6年度 学校評価・学校関係者評価実施結果報告書

岡山県理容美容専門学校

1. 教育目標

本校は、実践的な理容・美容の職業教育を行い、これからの社会のニーズに対応できる優れた理容師・美容師を養成する理容美容専門学校である。

そのためには、一人一人の学生に基礎技術から専門的な技術・技能・知識の修得が出来るよう教育環境を整え、その中で理容・美容業の厳しさや楽しさなども体得させながら、理容・美容業に誇りを持った学生の育成に努めなければならない。そして、何より、理容・美容業がお客様に満足してもらえる技術とサービスを提供する業であることを認識させなければならない。

そこで、本校では従来から次の教育目標を掲げている。

- ・誠意----すべてのお客様に対して、真心を持って接することができるよう、日常において接客の心構えを持たせる。
- ・熱意----いかなる時でもお客様が満足できる結果が得られるよう、一生懸命頑張れる精神力を養う。
- ・創意----お客様に満足してもらえる必要な知識、技術、快適な施設や設備など、常日頃からよりよいものを創り出そうとする意識を持たせる。

これらの教育目標は、在学中はもとより理容・美容業に従事する上で、生涯持ち続けてほしいと願っている。

2. 本年度の重点目標と計画

① 理容科教員、美容科教員の相互授業の充実

新卒で修得者コースへの進学を考える学生が増えている。その為、ダブルライセンス取得に関して学生がより明確に進学のイメージができるように理容科と美容科の両科を併せ持つ本校の利点を生かし、理容科美容科の総合授業を活用し相互授業を積極的に行い、内容を充実させる。

② シラバスの再作成

学生により良い授業を行うために、現在のシラバスを見直し、授業の到達目標を明確にし、教員が常に授業の改善や工夫に務めるように研鑽させていく。

③ 教職員研修の充実

教員数は充足しているものの、入学者の増加に伴い教員のダブルライセンス取得を推進していく。各種検定の指導者研修に参加させ学生のスキルアップに役立たせる。

④ 教育環境の充実

理容科学生の増加に伴い、理容実習室の改装を行い、更なる学生数の増加にも対応でき学生が学びやすい環境にする。また、学生の憩いの場である学生ホールを多くの学生が利用しやすく、学年を超えて交流が育まれる場となるように改装する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

番号	評価項目	評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1 0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1 0
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

学校の理念・目的について各クラスに教育目標を掲げているが、肯定度としては高いものの、おおいに肯定的と回答した学生が全員とはなっていない。

② 今後の改善方策

校長から新入生と2年生に再度教育目標について話をしていただき、全学生に本校の理念・教育目標の周知に努める。

(2) 学校運営

番号	評価項目	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	④ 3 2 1 0
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1 0
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1 0
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1 0
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1 0
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

例年通り令和6年度の学校運営方針は、前年度末の学園理事会において決定され、その後の職員会議において教職員に示されている。給与規定等についても明確にしておき、教職員が安心して勤務に専念できるよう、常に風通しの良い職場環境を第一に考えてい

る。

社会全体の若者のモラルの低下が叫ばれている昨今、一部の学生による近隣への無断駐車等の迷惑行為があった。

② 今後の改善方策

社会生活を円滑に営むためにも、接客業に従事する者としても、マナー・モラル・ルールの順守に努め、挨拶の励行に重点をおき、地域社会との共生を意識させる。

(3) 教育活動

番号	評価項目	評価
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1 0
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1 0
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1 0
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1 0
3-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	④ 3 2 1 0
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1 0
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1 0
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1 0
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1 0
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1 0
3-11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1 0
3-12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

令和5年度には理容師免許、美容師免許のダブルライセンスを取得している教員は1名であったが、令和6年度は更に理容科教員と美容科教員の1名ずつがダブルライセンスを取得した。今年度もダブルライセンス取得教員による理容科学生へのエステ授業を行い学生の好評を得ていた。多様性の時代に対応したサロンも増えてきており、各科の特色を生かしながら学生が就職後に即戦力となれるようカリキュラムの再考が今後の課題である。

② 今後の改善方策

即戦力講習に参加した教員による授業や現場のニーズに則した授業を取り入れるために、総合授業を更に増加し、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムを来年度に向

け再考する。

(4) 学修成果

番号	評価項目	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-2	資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-3	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1 0
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

就職については、希望者は全員就職できており問題ない。ただ、労働条件等しっかりとした就職活動をせずに就職先を決める学生や卒業間近まで就職活動をしない学生も数名いる。1年次から就職ガイダンスを行っているものの就職活動の重要性が一部の学生には理解できていないようである。

② 今後の改善方策

校内での就職ガイダンスの他に、外部講師による就職ガイダンスの導入や県内県外を問わず学校に案内の来た就職フェアについては学生に周知し、積極的な就職活動ができるように指導していく。

(5) 学生支援

番号	評価項目	評価
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1 0
5-7	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1 0
5-8	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1 0

おいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

保護者との適切な連携に関しては、遅刻欠席が多い、成績不良の学生の保護者に対しては、退学率の低減にもつながるよう密に連携をとっており、保護者からも一定の評価を得

ている。学校生活において問題のない学生の保護者に関して更なる連携を取っていくべきである。

② 今後の改善方策

保護者に対しては、入学式で学校の沿革等映像で見えたり、校外コンクール参観の案内や校内コンテストの保護者参観の企画を通して、学びの状況や技術の習得状況を見ていただくことで学校教育に対しての理解を深めていただきながら適切に連携をとる。

(6) 教育環境

番号	評価項目	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1 0
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1 0
6-3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

今年度は昨年度の改善方策として明記した通り、12月の繁忙時期の実務実習を10月に変更し、より指導していただける実務実習になったと思われる。防災に関しては、AED講習の再開や避難訓練の実施などにより防災に対する体制はコロナ以前のように整備されたが、災害への意識がまだまだ低く感じる。

② 今後の改善方策

地震体験車やVRでの火災訓練も検討しているが、施設設備関係からどのような訓練が学生の防災意識に適しているのか消防署と連携を図りながら、学生の防災に対する意識を高める。

(7) 学生の受入れ募集

番号	評価項目	評価
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1 0
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1 0
7-3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1 0
7-4	学生納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

学生学納金については今年も据え置いた。しかし次年度の募集から実習用具等の値上げは免れない。業者との折衝や実習用具の内容の見直しを行い、最低限の値上げで対応したい。

② 今後の改善方策

値上げを検討する場合に限らず、常に実習用具費の内容を検討し学生にとって有用性のあるカリキュラムに見合った実習用具を購入していく。

(8) 財務

番号	評価項目	評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1 0
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1 0
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本年度も本校の学園会計を指導する指吸会計センターから、本年度の学園会計は健全であり財政基盤は安定していることの報告を受けた。また、学園監事により学園・学校運営や資金収支においても適正であることの監査報告を受けている。なお、これからもより一層の透明性と健全経営を図っていく所存である。

② 今後の改善方策

今年度も美容科の定員が充足したため、美容コースの一般1月入試は中止とした。今後は少子高齢化により入学者数の減少が見込まれる。退学者休学者を低減し授業料収入を中心とする財政基盤の安定と予算の厳格化に努めていく。

(9) 法令の遵守

番号	評価項目	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1 0
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1 0
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1 0
9-4	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

今年度の2月に岡山県生活衛生課による指導調査が実施され、使用していない薬品の処分についてご指摘はいただいたが、適正な運営がなされていると評価していただいた。

② 今後の改善方策

岡山県総務学事課並びに岡山県生活衛生課と密に連携をとりながら常に法令・専修学校設置基準等の順守と適正な運営が行えるように努める。

(10) 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1 0
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

③ 特記事項

年に2回近隣の地域清掃を行っている。

また、物理的・時間的の許す限り社会貢献・地域貢献や他の教育機関との連携授業並びに施設使用の提供を行っている。

・豪雨災害時における緊急避難場所-----岡山市大元学区連合町内会

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和6年度の学校運営について、在学者数並びに入学者数はここ数年連続して順調である。昨年同様、理容科の入学希望者と美容科トータルビューティーコースの入学希望者が増加傾向にあり、学校運営の安定的基盤を築いている。

更に理容科の入学者数を増加させるためにも理容科の総合授業の充実を図った。理容師免許と美容師免許のダブルライセンスを取得した教員が3名在籍していることは、学生にとって充実した授業内容になっているのではないかと考えられる。理容師免許取得した美容教員による美容科学学生への指導に関しては、理容科の刈り上げ技術など一朝一夕に身に付く技術ではないために、ある程度の授業時間数を設けなければならず、充実といった域までは達していなかったのではないかと思う。美容科のカリキュラムの充実も図りながら相互授業を充実させていく難しさを感じているが、学びの深い授業となるようこれからも常にカリキュラムの見直しに取り組みたい。

理容科学学生の増加に伴う理容実習室の改装および学生の憩いの場になっている学生ホールの改装は学生から高評価を得ている。学生ホールは以前よりも多くの学生が利用するようになり学年を超えた交流が生まれ、学生の技術取得にもよりよい影響を及ぼしている。